

7・8 檜の木まつりにあつまろう！

2016 年 10 月に下された、農地取り上げの最高裁決定を受け、反対同盟は市東さん宅離れに強制執行阻止決戦本部を構え、現地への結集を呼びかけてきました。

檜の木まつりは、明け渡し対象の農地に触れることで、1 年半の間、強制執行を止めてきた勝利を確認し、体を張って農地を守る決意を固める催しです。



180 人が集まった昨年の檜の木まつり（17 年 7 月 9 日）

～第 2 回天神峰檜の木まつり～

7 月 8 日（日）

●12 時 30 分 南台の畑集合
畑見学と小集会

●13 時～
開拓組合道路までデモ行進

●13 時 30 分～
市東さん宅中庭でまつり

フランス・AFP 通信が市東さんを紹介



↑ニュース動画
はこちら！

（写真）「空港会社から 1 億 8 千万円の金をもらうより、1 本 1 0 0 円の大根をこの地で作り続けたい」と語る市東孝雄さん。

援農・現地見学、毎日募集中！！

市東さん、萩原さんの畑では完全無農薬・有機栽培で年間 50 種類以上の野菜が作られています。三里塚の大地に触れ、闘いの息吹を感じてください。



【現地へのアクセス】

●コミュニティバス 津富浦（つぶうら）ルート

京成成田駅東口エスカレーターを降りて左、「ローソン」前にバス停
京成成田駅東口 8：49 発 → 9：05 天神峰着

もしくは京成成田駅東口 11：44 発 → 12：00 天神峰着



いつでも
お待ちしております

三里塚行動隊通信 No. 10

2018 年 6 月 22 日

発行：全学連三里塚現地行動隊

連絡先：二川 光 （Tel）080-4399-5594 （mail）cf47cd3fd777snc@i.softbank.jp

強制執行ゆるさない！ 6.28 千葉地裁へ！ 市東孝雄さん、萩原富夫さんが証言にたつ！



反対同盟・市東孝雄さんの農地の強制収用を 1 年半にわたり阻止し続けてきた請求異議裁判が、いよいよ正念場を迎えました。

前回の裁判では「1971 年の大木よねさんに対する強制代執行を繰り返すのか」という怒りが沸き起こり、千葉地裁・高瀬順久裁判長を追い詰めています。

しかし、反対尋問を一切放棄して居直った N A A の代理人と同じく、高瀬裁判長は証人採用を拒否し、7 月 1

7 日の裁判を最終弁論として、この秋にも判決を出そうとしています。

祖父の代から 1 0 0 年耕し続けた農地を、「空港会社の利益のため」農地法違反を繰り返してまで取り上げる、「命よりも金もうけ」を優先する先に私たちが望む「未来」や「希望」はありません。この「正義なき法」に対して、今回、市東さん、萩原さんが証言に立ち N A A と裁判所を断罪します。

反対同盟と心一つに、強制執行を阻止し、社会を変える民衆の怒りを見せつけてやりましょう！ 6 月 2 8 日の請求異議裁判に駆けつけましょう！（全学連三里塚現地行動隊・二川 光）

6 月 2 8 日（木） 請求異議裁判

●正午 千葉市中央公園集合
集会＆千葉地裁へデモ

●午後 2 時開廷 証人尋問
萩原富夫さん、市東孝雄さん

*傍聴券の配布がありますので、3 0 ～ 4 0 分前にお集まり下さい



東大・駒場で「京大立て看」企画 首都圏から50人集まり大成功！

(『前進』第2949号、京都大学全学自治会同学会委員長・作部羊平くんの報告より転載)



6月8日、東京大学教育問題研究会の主催で「京大立て看板規制を京大生と共に語る集い」が東大駒場キャンパスで行われ、招かれて参加しました(写真)。参加者は約50人、東大生も「大学の授業より人気」となるほど。駒場だけでなく本郷

キャンパス、一橋大や日大などからも学生が集まり、京大タテカン攻防への関心の高さを実感しました。

立て看規制の背景に大学改革

まず、同学会書記長の阿津良典君が立て看板規制の経緯を紹介しました。闘いを担う1、2回生も企画に参加し、表現の自由や学問・教育の観点から見たタテカン文化の大切さを熱烈にアピールしました。京大当局が警察をも動員して弾圧を狙う中で、新たな

三里塚闘争日程

- 6月24日(日) 天神峰カフェ 12時 市東さん宅離れ集合
- 6月28日(木) 請求異議裁判 14時～ @千葉地裁 (12時～ 千葉中央公園で集会ーデモ行進)
- 7月8日(日) 第2回天神峰樫の木まつり 12時半 市東さんの南台の畑集合
- 7月9日(月) 新やぐら裁判 10時半～ @千葉地裁
- 7月15日(日) 第63回周辺地域一斉行動

層がどんどん行動を始めていること。ここに京大タテカン運動の魅力があります。

私は、立て看板規制の背景にある大学改革と同学会運動について提起しました。全国の大学で金もうけを担う理事や学外委員に権限が集中する一方で、学内の締め付けが一層強くなっています。ともすれば漂う「諦めムード」に対し、同学会はストライキ弾圧を始めとした逮捕・処分をはね返し、「権力と闘える」ことを証明してきました。そして今多くの京大生がタテカンをめぐる実力闘争に決起し、15年反戦バリストの時には成し得なかった「全学生の団結した闘い」をつくり出そうとしています。

日大生も参加し活発に討論

主催の東大生からは、東大でも立て看板規制が進み、特に本郷キャンパスでは事実上禁止であること、そして日大生からも、アメフト問題に対してタテカンどころかビラの1枚も出せない日大の現実が報告されました。今回の企画は、同じ問題に直面する全国の大学生がつながっていく重要なきっかけとなりました。

京大・山極壽一総長(日本学術会議会長・国立大学協会会長を兼任)は毎日新聞のインタビューで「議論した上で軍事研究をやるべきという意見が優勢なら仕方ない」と答えています。大学改革の行き着く先は国策の追認であり、改憲と戦争です。京大を切っ先に全国大学で信念を貫く学生自治の復権へ！ 京大生は東大生と連帯して闘います。

「前進チャンネル」絶賛更新中！



- 中核派の機関誌『前進』を分かりやすく紹介
- 週2回更新+特別篇
- 視聴者アンケートで特別企画も



全学連HP



Youtube



Twitter

